

2026 年度

尚綱学院高等学校
入学試験問題

国 語

試験時間 (50分)

注 意 事 項

1. 「始め」の合図があるまで問題の表紙を開かないでください。
2. 解答用紙に4桁の受験番号を記入し、対応する番号をマークしてください。記入欄は裏面にもありますので、必ず記入してください。
3. マーク方式の解答欄は解答用紙の表面です。それぞれ指定されている番号の欄にマークしてください。
4. 記述方式の解答欄は解答用紙の裏面です。それぞれ決められた欄に記入してください。
5. 解答用紙は機械で直接読み込みますので、解答用紙の注意事項を正しく守ってください。訂正する場合は、消しゴムで丁寧に消してください。
6. 印刷が見えにくい場合は、手をあげて監督者の指示に従ってください。
7. 考査が終わったら、解答用紙と問題用紙を別々にしておいてください。
8. その他すべて、監督者の指示に従ってください。

受験番号

第一問 次の各問いに答えなさい。

問一 次の傍線部に相当する漢字を含むものを各群から一つずつ選び、その番号

をマークしなさい。解答番号は

(1) 部屋中に声か**ヒビ**く。

① 姿勢をキョウセイする。 ② 友人にエイキョウされる。

③ キョウイ的な記録だ。 ④ メイキョウ止水の境地。

(2) 小説の最後で**フクセン**が回収される。

① 彼の努力はケイフクに値する。 ② フクスイ盆に返らずだ。

③ 社会**フクシ**事業に取り組む。 ④ キフクの激しい山だ。

(3) 久しぶりのヨカを**楽しむ**。

① 描いた絵が**カサク**に選ばれる。 ② 受注が増えて**フカ**がかかる。

③ **スナカ**を惜しんで練習する。 ④ **カクウ**の話を考える。

(4) **ハンドル**をソウサして運転する。

① 準備タイソウを**しつかり**する。 ② 安全ソウチを点検する。

③ ソウダイな景色が広がる。 ④ **ガッソウ**曲を練習する。

(5) 医学の発展のために**キフ**をする。

① 古くて**キショウ**価値が高い。 ② **キミョウ**なことが起こる。

③ 雑誌に毎月**キコウ**している。 ④ **キジョウ**の空論にすぎない。

(6) 勢いが**オトロ**える。

① 師匠の技に**シンスイ**する。 ② 事態の**スイイ**を見守る。

③ 神経**スイジャク**で遊ぶ。 ④ 任務を**スイコウ**する。

問二 次の文のうち、文節ごとに正しく分けられているものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

- ① その日は／焼きそばを／食べた／後に／テスト勉強を／して／いた。
- ② その日は／焼きそばを／食べた後に／テスト勉強を／して／いた。
- ③ その／日は／焼きそばを／食べた後に／テスト勉強を／して／いた。
- ④ その／日は／焼きそばを／食べた／後に／テスト勉強を／して／いた。
- ⑤ その／日は／焼きそばを／食べた／後に／テスト勉強を／して／いた。

問三 「没」と同じ部首を持つ漢字を行書で書いたものを一つ選び、その番号を

マークしなさい。解答番号は

① 投 ② 収 ③ 冷 ④ 冬 ⑤ 深

問四 〈Aさん〉は、国語の授業や読書の時に限らず、生活の中で気になった言葉をノートにまとめています。次の文章は、そのノートについてのやりとりを記録したものです。後の(1)～(5)の問いに答えなさい。

〈Aさん〉 ^A初めはノート作りが面倒でしたが、辞書で調べること次第に面白さを感じるようになりました。みなさんにも実感してもらいたいです。

〈先生〉 どんなどころが面白いのですか。

〈Aさん〉 意味を間違って覚えている言葉が結構ありました。たとえば、「さわりだけ話す」の「さわり」とは「最初の部分」を指すと思っていました。

〈Bさん〉 え、そうではないのですか。

〈Cさん〉 「さわり」とは ですよ。

〈Aさん〉 よく知っていますね。曖昧だった意味を確認するのは楽しいですよ。

〈Cさん〉 意味を間違えやすい言葉として、「さわりだけ話す」がクイズ番組で出題されていたのを見たことがあります。

〈先生〉 他にも意味を知らなかった言葉はありましたか。

〈Cさん〉 私は知っていましたが、「役不足」の意味を知らない人がいました。

〈Aさん〉 私は「うがった見方をする」の意味について辞書で調べました。「うがつ」は「雨垂れ石をうがつ」ということわざでも使われていますが、本来の意味はその意味から転じた **Y** ことだそうです。

〈Bさん〉 私は、疑ってかかるような見方することだと思っていました。

〈Aさん〉 私もです。この言葉は、本来の意味ではなく間違った意味で捉えている人の方が多いという結果が世論調査でも出ているそうです。

〈先生〉 言葉はどういう文脈で使われているかを理解しないといいけません。そのためには意味だけでなく、例文も書き写すようにするといいですよ。

〈Cさん〉 世論調査の話が出ましたが、世の中に間違った意味が浸透してそれを使う人が増えていくと、辞書の意味が変わることがあるんですね。

〈先生〉 そうです。言葉の意味だけでなく、言葉そのものも日々変化していくものです。みなさんが今使っている **C** は、時間が経たなければ分かりません。

〈Bさん〉 まずは、言葉の正しい意味や使い方を知っておきたいです。

〈Cさん〉 先生がおっしゃったような世代による言葉の違いも興味深いと思いました。

(1) **A** 「初めはノート作りが面倒でしたが、辞書で調べること次第に面白さを感じるようになりました。みなさんにも実感してもらいたいです」とあるが、〈Aさん〉が聞き手に伝えるときに注意すべきこととして適切でないものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **9**

- ① 理解をしやすいように、意味によるまとまりで区切りながら話す。
- ② 冷静に話すために、用意しておいた原稿から目を離さずに話す。
- ③ 聞き取りやすくするために、はっきりとした発音で堂々と話す。
- ④ 聞き手が興味を持ちやすいように、言葉に強弱をつけながら話す。
- ⑤ 形式にとらわれすぎず、自分らしい表現で感情を込めながら話す。

(2) 空欄 **X**・**Y** に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **10**

- ① **X** 結論となる部分 **Y** 客観的な見方をする
- ② **X** 不都合がない部分 **Y** 冷静沈着な見方をする
- ③ **X** 興味を持つ部分 **Y** 偏見を持った見方をする
- ④ **X** 中心となる部分 **Y** 本質をついた見方をする
- ⑤ **X** 大まかな部分 **Y** 今までにない見方をする

(3) **B** 「『役不足』の意味」とあるが、「役不足」の使い方として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **11**

- ① ほんの脇役なのにあの有名俳優に振るのは役不足だ。
- ② この仕事は私にはまだ役不足だが力を尽くしたい。
- ③ 大規模な計画を決断するには役不足の人材ばかりだ。
- ④ 収穫の時期はこの農家でも役不足の状態になる。
- ⑤ 初めてのことで、私では役不足なのではと感じている。

(4) 空欄 **C** に入る表現として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **12**

- ① 普段の話し言葉も、誰も使わなくなって辞書から消える日が来るのか
- ② いわゆる「若者ことば」も、後世までずっと残っていくのかどうか
- ③ 「正しい」とされている言葉も、この先もずっと正しいと言えるのか
- ④ ことわざや慣用語も、少しずつ意味が変わっていくかどうか
- ⑤ 国語の辞書が、将来まったく使い物にならなくなるかどうか

(5) この文章の内容として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 13

- ① 言葉の意味の捉え方が世代によって異なっているのは当然のことであり、それを指摘して是正する必要はない。
- ② 〈Aさん〉は言葉の正しい意味や使い方を身に着けるためのノート作りで、例文を必ず書き写すようにしている。
- ③ 言葉の意味を正確に知ることが必要であるが、誤用する人数が増えればそれが本来の意味に取って代わることもある。
- ④ 世論調査によると、現在使用されるほとんどの言葉について本来の意味ではなく異なる意味で覚えている人が多い。
- ⑤ 辞書の意味は時代によって変わることがあるので、厳密に考えすぎず臨機応変に使用していくことが望ましい。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

咲良^{さくら}とシューコはかつて同じ中学校に通い、バレエ部に所属していた。選手として活躍していた咲良は、高校では陸上部のマナージャーをしている。バレエ部のマナージャーだったシューコは、咲良とは別の高校で現在もマナージャーをしている。二人は久しぶりに再会した。

「咲良はなにやってるの？」

「マ、……マナージャー」

一瞬、言い淀^{よど}んでから言うと、シューコは目をまん丸にした。

「マナージャー？」

「意外でしょ」

どこか自虐的になった咲良に、シューコは X を振った。案外きっぱりとした振り方だった。

「ううん。マナージャー楽しいでしょ？」

同志を得たかのような喜びようだった。

「うん。楽しい」

だから咲良も正直にうなずいたが、そこでシューコは初めて心配そうな顔になった。

「もしかして、あのけがが原因でバレエできなくなったの？」

「けがって、ここの？」

一瞬、どのけがかと考えたが、咲良が持ち上げたひじにシューコはうなずいた。

「違うよ。これは大したことなかったもん」

咲良は激しくひじの伸縮運動をしてみた。

たしかにバレエ部を辞めるきっかけにはなかったが、続けるのに致命的なけがではなかった。それよりもあのときは心の方が痛かったのだ。自分のせいで大舞台で負けたこと。それをシューコのせいにしたこと。けれどもシューコは本当に心配してくれていたようだった。

「よかったよ。咲良は大したことないって言ってたけど、本当はひどかったんじゃないかって心配してたんだよ。咲良って辛抱強いから」

A シューコはすつきりしたように笑い、続けてたずねた。

「バレー部の？」

「ううん。陸上部。男子の短距離」

さすがにそれは想定外だったのか、不思議そうな顔になったが、その顔には「男狙いだな」とは書いてなかった。それどころか、

「わかる。だって咲良、鬼ごっこも強かったもん」

と、楽しい記憶さえ掘り起こしてくれた。そういえば部活終わりに、鬼ごっこが流行った時期があった。くたくたになるまで練習をしたあとにもかかわらず、体育館から更衣室までの間を、鬼ごっこをしながら帰っていたのだ。足の速い咲良が鬼になるとみんな震え上がったものだ。

すつと胸が軽くなった。

「陸上、面白いよ。一瞬の爽快感がとっても気持ちいい」

自然と声も弾んだ。

「ああ、なんかハガサクっぽい。思いっきりがいい感じ」

「そう？」

咲良の軽くなったはずの胸には**B** あま ます 甘酸っぱい気持ちもこみ上げてきた。そうだ、シューコにはこんなところがあった。人のことをまずは受け止めてくれる。だが、正直に言うところというところが、咲良は苦手でもあった。白けてしまうのだ。「わかりもしないのに、適当なこと言わないで」という気持ちになっていたので。わかったような顔をするシューコを偽善的だとさえ思っていた。

「うん、咲良って瞬発力あるもんね」

でも今は、そんなシューコの言葉が素直にうれしかった。

「ありがと」

咲良の口からは素直なお礼の言葉が出た。

甘えていたんだな、と、思う。なんでも受け止めようとするシューコに。だからきつい言葉を投げつけた。負けたことを一緒に悲しんでくれるシューコのせい

にした。

怖かったんだとも思う。自分は、誰かに気持ちを握られるのは嫌だったのだ。人を信じるのが怖かったから、自分を投げ出せなかったのだ。シューコは見た目も言動も、二年前とほとんど変わってないと思えるのに、咲良の心にすんなりしてみた。それが恥ずかしくて、わざと咲良は声のトーンを上げた。

「マネージャーもなかなか大変だね。こっちは選手と一緒に闘ってるつもりでも、ウザがられたりするし」

「そうだね。出した結果をかぶるのは、結局選手本人だしね。私たちの気持ちが届かないこともある。もどかしいね」

シューコもそこは悩ましい点なのか、

C

指先を見つめた。

シューコの爪は、短く切りそろえられている。あの頃も、爪が伸びていては、ボールの感覚が狂うと大げさなことを言って、こまめに切っていたが、今も当時のままのようだ。

「中学校のとき、シューコは、どうしてマネージャーになったの？ コーチから頼まれたからっていうのは知ってるけど」

ふと、基本的な疑問が **Y** をつけた。高校生になった今でもバレーにかかわっているほどだから、本当は実際にやりたかったのではないだろうか。

「私、頼まれたんじゃないよ」

だが、シューコが言った。

「コーチから頼まれる前に、自分で志願したの」

「へえ、そうだったんだ」

少し意外な気がした。レベルに達しない人たちがどんどん辞めていく中でシューコが残ったのは、いつかは自分もプレーがしたかったからだと思っていた。が、シューコはさらに思いもよらないことを言った。

「千中ではレギュラーにはなれないと思ったからね」

「……」

「だって、全国大会の常連だよ？」

シューコは心の中を正確に検証するみたいに、ゆっくりと言った。

「じゃあ、高校でまたやってもよかったんじゃない？」

「私、マネージャーの方が向いてるの」

「……、シューコはよく気がつくもんね」

つい自嘲的な言い方になってしまったのは、咲良は自分のマネージャーぶりに我ながらあきれているからだだった。^{*2}直なおからも試合のたびに、なにかしらの注意を受けている。計測忘ればかりでなく、タオルを間違えて渡すこともしばしばだ。保冷用の氷を忘れて、ぬるままのドリンクを出したこともある。

中学校の頃はそんなことはなかった。今思うと、万事シューコのおかげだ。

シューコは失敗しないのはもちろん、試合の合間のタオルの渡し方やスポーツドリンクの回収もいつもの確だった。一度など咲良が遠征先に忘れた傘を、シューコが届けてくれたことがある。ゲーム中に雨がやんで気楽に帰ったあとで、最終確認をしてくれたシューコが、気がついてくれたのだった。

「気がつくっていうか、選手たちがゲームに一生懸命な分、見えてないものが見えるだけなんだけど」^D

シューコは言葉を切って少し考えたあと、顔を上げた。

「それにマネージャーの方が楽しい」

シューコは言いなおした自分の言葉に納得するようにならずいた。

「そう、選手だった頃より、マネージャーになってからの方がずっと楽しいんだよね」

「そうなの？」

「うん。やっているときは、いっぱいいっぱいだった。ミスばかりしてたから、練習でも足^Zままといなのはわかってたし。なのに試合に出られないのは悔しくて素直に喜べなかった。でもマネージャーの役割があれば、純粹に応援できる。ちよつと無責任だけど」

シューコは少し肩をすくめた。

「それわかる」

咲良は否定しなかった。目の前で初めて短距離を見たときのまっさらな感動は忘れられない。走っていない自分の体まで、一気にゴールまで持っていかれたよ

うな気がした。負けたレースだったにもかかわらず、爽快だった。

「不思議な一体感だよ。自分はやらないのに」

「そうなのよ、そう」

あのときのことを思い出した咲良に、シューコも大きくうなずいた。「でも選手たちには勝って欲しいと思う。勝った方が気持ちいいことも知ってるから。だからそのために手助けしたいんだよね」

選手の気持ちが変わっているのは、シューコの気持ちが変わったから。^{だ。}

「だよ」

同じくプレーヤーだった咲良にもわかる。闘っている以上は勝ちたい。

あのとき勝っていたら。

胸を暗い記憶がよぎった。全国大会の準決勝で自分が自滅しなければ、自分はバレーを辞めてなかったかもしれない。シューコも傷つけなかっただろう。

「ごめんね、シューコ」

準備をしていなかった言葉が、ぼろりと口からこぼれ出た。だが、シューコは答えなかった。

「頑張ろうね、私たちも」

自分を励ますようにも言った。咲良の声聞きこえなかったのではないだろう。さりげなく流してくれたのだ。^E胸むねがすつと軽くなる。

「咲良らしくやればいいんだよ」

シューコは自分の両目の幅分に広げた両手を、まっすぐに伸ばして狭い視界を作ってみせた。

「これはこれでいいところあるんだから」

「さすがにこれじゃだめだよ」

咲良も同じように狭い手の幅を遠くまで伸ばしてみる。^F思おもわず、あつと、声こゑが出いそうになった。

それは陸上のコースによく似ていた。スタート地点に立った選手たちは、ゴールしか見えていない。マネージャーももちろん目指すところは同じだ。けれども選

手の背後に立つマネージャーの視界には選手もコースもすべて丸ごと入っている。「ありがと、シューコ」
咲良は叫んで駆け出した。

(まはら三桃「疾風の女子マネー！」による)

【注】

* 1 ハガサク：咲良のニックネーム。「鋼の咲良」の略。

* 2 直：咲良と同じ陸上部のマネージャー。

問一 空欄 X、Y、Z に入る言葉として最も適切なもの一つずつ

選び、その番号をマークしなさい。同じ番号は二度使えません。

解答番号は X 14 Y 15 Z 16

- ① 頭 ② 口 ③ 目 ④ 手 ⑤ 首

問二 「シューコはすっきりしたように笑い」とあるが、そのように笑ったのはなぜか。その理由として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 17

① 咲良は選手としてではないが、今もマネージャーとしてバレー部に関わっていると考えていたから。

② けがの状態について咲良が嘘をついていたと思い込んでいた自分を恥ずかしく思ったから。

③ 咲良がバレーを辞めた原因が深刻なけがではなかったということを知って安堵したから。

④ 同じマネージャーをしている咲良をまるで同志を得たかのようにうれしく思ったから。

⑤ 二年前の試合に負けたのは自分のせいかもしれないと思っていたのが勘違いだったから。

問三 「甘酸っぱい気持ちもこみ上げてきた」とあるが、これはどういう心情か。最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は 18

① 中学バレー部でのシューコとの絆を、「ハガサク」という呼び方で感じる事ができたという高揚感。

② わかったような顔をするシューコを偽善的だと思って、苦手意識を持っていた中学校生活への郷愁。

③ 人のことをなんでも受け止めようとするシューコに対して、過去の自分が冷たく接していたことへの羞恥心。

④ 自分がマネージャーになるまで理解していなかった、シューコのマネージャーぶりへの感嘆。

⑤ 鬼ごっこをしながら帰っていたことをすっかり忘れていたのに、思い出させてくれたことへの感謝。

問四 空欄 C に入る表現として最も適切なものを一つ選び、その番号を6

マークしなさい。解答番号は 19

① 答えあぐねるように ② 藁にもすがるように

③ 腫れ物に触るように ④ 目星をつけるように

⑤ いぶかしがるように

問五 「選手たちがゲームに一生懸命な分、見えてないものが見える」とあるが、この様子に近い表現として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 20

① 以心伝心 ② 一望千里

③ 傍目八目 ④ 廣大無辺 ⑤ 温故知新

問六 「胸がすつと軽くなる」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 21

- ① 全国大会の準決勝で負けたのは自分が自滅したからだということに、ようやく気づくことができたから。
- ② 咲良の苦い思いを汲み取った上でのさりげない気づかいに、シュウコの優しさを感じてうれしかったから。
- ③ 二人ともプレーヤーだったからこそ、選手の気持ちを理解できるマネージャーになれると確信したから。
- ④ シュウコと話しながら常に謝罪のタイミングを図っていた咲良にとって、絶好のチャンスが巡ってきたから。
- ⑤ これまで話し合ったことがなかったが、咲良が非を認めたことで二人の背負っていた重圧が消失したから。

問七 「思わず、あっと、声が出そうになった」とあるが、どういうことに気づいたのか。最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 22

- ① 自分らしくやれば不思議な一体感を感じられるということ。
- ② 自分が両目の幅分の狭い視界で物事を見ていたということ。
- ③ 選手もマネージャーも目指すところは同じであるということ。
- ④ 自分たちの未来は陸上のコースによく似ているということ。
- ⑤ マネージャーの立場だからこそ見えるものがあるということ。

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

サバンナにはヒトが簡単に手に入れられるような食料は、ほとんどない。シマウマのような、タンパク質の塊ともいえる草食動物が多く生息しているが、ヒトは肉食動物ではない。肉食動物はつめやきばを持ち、ほかの動物を食料にできるが、木の上で暮らしていた霊長類が簡単にほかの動物を狩ることはできなかった。では、植物はというと、こうした過酷な場に生息する植物は水分をあまり含んでおらず乾燥しているものが多い。また、外殻が硬かったり、水分を含む実の部分は地中に埋もれていることがほとんどである。そうした実をとるためには地面を掘らなくてはならないが、器用さを重視した手なので、つめで掘り進むこともままならなかった。

では、彼らはこの難局にどう適応していったのか。一つは、食料を確保するために、自然を利用して非力さをカバーする道具を製作し、活用することを覚えた。石器を使つての狩りや、食物採取である。【ア】

そしてもう一つ、目標のために役割分担し複数で共同作業を知つたのである。それまでのように、一人ひとりが群れの中で勝手に暮らすのではない。群れという組織において、互いが自分と相手の果たすべき役割を理解し、目標達成のために何をするかを考え、いっしょに行動する。群れ全体が自分の立ち位置と役割を意識する集団となり、こうした社会関係の理解こそが、類人猿とは異なる、ヒトをヒトたらしめた最大の分岐点になったのだ。このときを契機として、ヒトの脳は著しく進化する。やがてヒトは、ほかの動物と比べて格段に大きな脳を持つようになった。これは過酷な環境でヒトが編み出した、生き抜くために必要な進化だったといえるだろう。

人類は二足歩行に加え、大きな頭部を持つように進化したが、その頭部で特に大きいのが脳である。最初から大きかったのではなく、300〜400万年前の時点では、チンパンジーやゴリラとあまり変わらなかった。しかし、サバンナに出て行き環境に適応したホモ属が出てきた頃から、一度急激に大きくなる。その後しばらく、大きさは変わらないが、現在のホモ・サピエンスが登場したときに、

またもう一段大きくなったのである。

実際に脳の大きさを比較してみると、チンパンジーの脳の容量が約380ccであるのに対し、ヒトは約1400ccある。【X】、進化の過程で単純にチンパンジーの脳がそのまま大きくなったということではなく、目の裏側の部分から頭のとっぺんにかけて、おでこ周辺にある前頭前野という部分が特に大きくなっているのだ。【イ】

その前頭前野とは、何を司る部分なのか。脳の働きは解析されてきたが、前頭前野にあたる部分がどのような機能を持つているかは長年わからなかった。近年ようやく、前頭前野は「自分を客観的に見る」感覚を司っていることがわかってきた。自分が何をして、何を感じているか。そして他人が何を思い、どう感じているか。自分の気持ちを参照しながら、相手が何を感じ考えているかを知るための器官なのだ。また、自分が何を欲しているかということもモニターしているので、それと連動して、目標を達成するために、次に何をしなければいけないかといった物事の優先順位を決める役割もある。【ウ】

これは言語能力などとは別々に管理されており、例えば事故で前頭前野を損傷してしまっても、言葉や記憶、思考には問題ない。【Y】、他人の気持ちが読めなくなったり、次にするべきことの判断ができず、何かをしようという意欲もわかなくなってしまう。

前頭前野の働きをほかの霊長類と比較すると、サバンナに出て環境に適応したヒトが、他人の心を読んで共同作業をし社会生活を営むようになった、という進化の過程がわかるのである。【エ】

人間の脳は、だからだと何となく大きくなっていったのではなくて、サバンナに進出したときと、ホモ・サピエンスが登場したときに、一気に大きくなった。その二度の拡張の際、ヒトがどのような困難に直面し、切り抜けていったのが、現在の自然人類学で一番おもしろい部分なのだ。

まだ正確にはわかっていないが、二回目に脳が発達した時期は、ホモ・サピエンスがアフリカ大陸からユーラシア大陸に進出していったときと重なっており、このことが秘密を解く手がかりになるかもしれない。20万年前、アフリカ大陸か

ら陸地を伝って新しい世界へ進出したヒトは、世界各地に散らばり広がっていった。「オ」

そうしたリスクを冒してまで、なぜ彼らは外界に出て行ったのか。今よりもはるかに人口が少ない時代であり、アフリカ大陸にヒトが増えすぎて飽和状態になった、ということも考えにくい。

私は、その要因は、好奇心ではないかと思う。脳が大きくなることにより、ヒトは物事の因果関係をより深く考えるようになった。Z、今自分たちが生活している世界を客観視することができるようになり、同時に、さらに外の世界には何が広がっているのか、と考えるようになる。そうした冒険心から、彼らは別の大陸へ渡っていったのだと、私は考えている。それは、現在も我々が宇宙という空間に思いを馳せ、ステーションを建設し、惑星を探查することと同じなわけではないだろうか。

(中略)

ヒトは大きな脳を持つようになったが、それだけの脳機能が育ち一人前の生物になるまでに、ほかに類を見ないほどの時間とコストがかかるようになった。お産をこれ以上負担のかかるものにはできないため、最初から頭部を大きくして産むことはできない。あくまでも、これまでどおりの状態で産み、大きく育て上げていかなければならないのである。

ある心理学者が、チンパンジーの赤ちゃんと同じ年の自分の子どもを、同じ環境でいっしょに育てたらどうなるかという実験をしたことがあった。毎日、同じように話しかけ、同じ物を食べさせ、その発達の違いを比べたのだ。最終的には、ヒトと同じ環境で育てても、チンパンジーはやはりチンパンジーにしかならないという結果が出た。

チンパンジーは4年程度で離乳し、その後は移動も自分一人で行えるようになるし、果実をとることもできるようになる。暖かい熱帯降雨林の中で、ただ果実や葉っぱをとってあればいいから、独力で暮らせるし、そのまま一人前になり自立し、面倒をみる必要もなくなる。それに対してヒトは、3年ほどで離乳はするが、6歳になるまで大臼歯すら生えてこないから食事も満足にできず、7歳ぐら

いまでは大人と同じようには歩けない……。離乳したら一人前、とはいかないのである。

ヒトは、何歳で一人前になるのか。森に暮らし狩猟をして生活している部族の間でも、一人前として独立が認められるのは18〜20歳になってからといわれる。日本で大学院に通っている子たちも、さまざまな面で親に頼って生きている人が多いことを考えると、現代では25歳くらいまで、周りのサポートが必要といえるだろう。

ヒトは、大きく優れた脳を手に入れた反面、一人前になるまでに長い期間を要するようになった。だからこそ、ヒトは社会全体で子育てを行うようになったのだ。

(長谷川眞理子「ヒトはなぜヒトになったか」による)

問一 空欄

X

Y

Z

のを一つずつ選び、その番号をマークしなさい。同じ番号は二度使えません。

解答番号はX

23

Y

24

Z

25

- ① しかし ② すると ③ あるいは ④ なお ⑤ しかも

問二 本文中から次の一文が抜けている。本文中の「ア」〜「オ」のうちどこに入るか。最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は

26

・かつて森からサバンナに進出したときのように、それは大きな困難を伴ったことは想像に難くない。

- ① 「ア」 ② 「イ」 ③ 「ウ」
④ 「エ」 ⑤ 「オ」

問三 「この難局」とあるが、それはどのようなことか。その説明として適切でないものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 27

- ① 草食動物が多く生息していたが、ヒトがそれらに対する有効な狩猟手段を持っていなかったこと。
- ② ヒトの手は器用さを重視した形状のため、つめで地中の実を掘り起こすのが困難だったこと。
- ③ ヒトが簡単に手に入れられる食料が、そもそもサバンナにはほとんどなかったこと。
- ④ 木の上で暮らす霊長類であるヒトは、草食動物が良質な食料だと気づけなかったこと。
- ⑤ サバンナという過酷な場に生息する植物は、水分が少なく乾燥しているものが多かったこと。

問四 「ヒトをヒトたらしめた」とあるが、どういうことか。最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 28

- ① 過酷な環境で生き抜くためにヒトが編み出した道具が、ヒトを唯一無二の存在へと進化させたということ。
- ② 群れにおける上下関係をヒトだけが構築できたことで、自然界の頂点に立つ特別な存在になれたということ。
- ③ 類人猿の社会関係をよく理解した上で発展させたことが、ヒトがヒトとして成長するきっかけになったこと。
- ④ 各自が役割を理解して共同作業をする社会性を持ったことが、ほかの動物との大きな違いを生んだということ。
- ⑤ 偶然の積み重ねがあったことで、ヒトは二足歩行に加えて大きな頭部を持つように進化したということ。

問五 「人間の脳は、だらだらと何となく大きくなっていったのではなくて」とあるが、その説明として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 29

- ① 人間の脳は理由もなく継続的に肥大化したのではなく、困難を切り抜けて環境に適応するために脳が大きく拡張したタイミングが二度あったということ。
- ② 人間の脳は理由もなく継続的に肥大化したのではなく、ヒトが増えて飽和状態になりかけたタイミングで段階的に脳を拡張していったということ。
- ③ 人間の脳は理由もなく継続的に肥大化したのではなく、社会生活を支障なく営みたいという強い目的意識が脳を大きくしていったということ。
- ④ 人間の脳は理由もなく継続的に肥大化したのではなく、外の世界への冒険心から世界を客観視するようになったことで脳が急速に大きくなっていったということ。
- ⑤ 人間の脳は理由もなく継続的に肥大化したのではなく、好奇心から物事の因果関係をより深く考えたことで脳の働きが活性化して大きくなっていったということ。

問六 「ヒトは社会全体で子育てを行うようになったのだ」とあるが、それはなぜか。本文中の言葉を用いて、五十字以内で書きなさい。解答は裏面の解答欄『第三問 問六』に記述すること。解答番号は 30

解答欄『第三問 問六』に記述すること。解答番号は 30

第四問 次の〈文章〉の漢文と、その〈書き下し文〉を読んで、後の問

いに答えなさい。

〈文章〉

A
 人有亡鉄者、意其隣之子。作動
 態度、無為而不窃鉄也。俄而掘其
 谷、而得其鉄。他日復見其隣人之
 B
 子、動作・態度、無似窃鉄者。
 諺曰、「疑心生暗鬼也。」心有疑、
 其人雖不窃鉄、而我以疑心視之、
 則其件件皆可疑。

(「列子」による)

〈書き下し文〉

*1ふ うしな
 人に鉄を亡へる者有り、其の隣の子を意ふ。作動・態
 度、為すとして鉄を窃まざるは無し。*2には
 俄かにして其の谷を
 掘りて、其の鉄を得たり。*4
 他日復た其の隣人の子を見るに、
 動作・態度、鉄を窃めるに似たる者無し。

諺に曰はく、「疑心暗鬼を生ず。」と。心疑ふ所有れば、
 其の人鉄を窃まずと雖も、我疑心を以て之を視れば、則
 *5
 ち其の件件皆疑ふべし。

【注】

- *1 鉄：木を切ったり割ったりする道具。斧おの。
- *2 俄かにして：やがて。
- *3 谷：窪地くぼち。ここでは自分の土地を指す。
- *4 他日：後日。
- *5 件件：一つ一つのことから。

問一

A
 「人有亡鉄者」が「人に鉄を亡へる者有り」という読みになるよう
 に返り点をつけるとき、最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしな
 さい。解答番号は 31

- ① 人有亡鉄者
- ② 人有亡鉄者
- ③ 人有亡鉄者
- ④ 人有亡鉄者
- ⑤ 人有亡鉄者

問二

B
 「動作・態度、無似窃鉄者」とあるが、それはなぜか。その理由
 として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は 32

- ① 隣人の子が犯人とあまり似ていなかったから。
- ② 隣人の子の態度が堂々としていたから。
- ③ 隣人の子が斧を探し出してくれたから。
- ④ 時間が経ち、すでに怒りが収まっていたから。
- ⑤ 斧が自分の家の窪地で見つかり、疑いが晴れたから。

問三 次の文章の空欄【 X 】【 Y 】に入る言葉として最も適切なものを

各群から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は X

33

Y

34

この漢文は、人間の心の弱さについて考えさせる内容になっています。日本にも「幽霊の正体見たり枯れ尾花」という言葉があります。これは、【 X 】という意味です。この漢文とこの言葉は、いずれも【 Y 】ということ説いているのです。

【 X 】

- ① 正体が分かって恐怖が消え去ると、急に威張りはじめるものである
- ② 枯れていて幽霊のようなススキが、心が弱っている自分の分身だと感じる
- ③ 怖い怖いと思っていると、ススキが風に揺れたのを幽霊だと思ってしまう
- ④ ススキの正体が幽霊だったと気づくと、怖い気持ちがなくなるものだ
- ⑤ 幽霊の存在を信じるあまり、ススキを幽霊ではないと思ってしまう

【 Y 】

- ① もし一度失敗しても、やり直す機会はあるので、あやま過ちを恐れないようにすべきである
- ② 怪しいと思ひ込んでしまうのは自分の心の問題であるから、先入観をなくすべきである
- ③ 信用していた人に裏切られて傷ついたとしても、まずは自分の隣人を信用すべきである
- ④ 当たり前の身近なことでも案外気づかないので、近くにあるものも意識すべきである
- ⑤ 人は不安や恐怖の中にいると真実が見えなくなるので、忠言には素直に耳を傾けるべきである

— 問題は以上です —

2026年度 尚綱学院高等学校 入学試験問題

A 日程 解答用紙【国語】

受験番号			
0	0	0	0
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9

得点欄(記入しないこと)

1. 記入欄・マーク欄以外には記入しないでください。
2. 鉛筆で、しっかり濃くマークしてください。
3. 間違った場合には、消しゴムで、きれいに消してください。

マーク例

良い例	<input checked="" type="radio"/>	悪い例	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----	----------------------------------	-----	-----------------------	-----------------------

第一問

番号	解答欄
1	① ② ③ ④ ⑤
2	① ② ③ ④ ⑤
3	① ② ③ ④ ⑤
4	① ② ③ ④ ⑤
5	① ② ③ ④ ⑤
6	① ② ③ ④ ⑤
7	① ② ③ ④ ⑤
8	① ② ③ ④ ⑤
9	① ② ③ ④ ⑤
10	① ② ③ ④ ⑤
11	① ② ③ ④ ⑤
12	① ② ③ ④ ⑤
13	① ② ③ ④ ⑤

第二問

番号	解答欄
14	① ② ③ ④ ⑤
15	① ② ③ ④ ⑤
16	① ② ③ ④ ⑤
17	① ② ③ ④ ⑤
18	① ② ③ ④ ⑤
19	① ② ③ ④ ⑤
20	① ② ③ ④ ⑤
21	① ② ③ ④ ⑤
22	① ② ③ ④ ⑤

第三問

番号	解答欄
23	① ② ③ ④ ⑤
24	① ② ③ ④ ⑤
25	① ② ③ ④ ⑤
26	① ② ③ ④ ⑤
27	① ② ③ ④ ⑤
28	① ② ③ ④ ⑤
29	① ② ③ ④ ⑤
30	解答欄は裏面です

第四問

番号	解答欄
31	① ② ③ ④ ⑤
32	① ② ③ ④ ⑤
33	① ② ③ ④ ⑤
34	① ② ③ ④ ⑤

受験番号	
------	--

*

30

第三問
問六

国語（A日程）

大問	小問	枝問	解答番号	配点	正解	備考
第一問	問一	(1)	1	2	②	
		(2)	2	2	④	
		(3)	3	2	③	
		(4)	4	2	①	
		(5)	5	2	③	
		(6)	6	2	③	
	問二		7	2	⑤	
	問三		8	2	⑤	
	問四	(1)	9	2	②	
		(2)	10	3	④	
		(3)	11	4	①	
		(4)	12	2	②	
		(5)	13	3	③	
第二問	問一	X	14	2	⑤	
		Y	15	2	②	
		Z	16	2	④	
	問二		17	4	③	
	問三		18	4	③	
	問四		19	4	①	
	問五		20	4	③	
	問六		21	4	②	
第三問	問一	X	23	2	⑤	
		Y	24	2	①	
		Z	25	2	②	
	問二		26	4	⑤	
	問三		27	4	④	
	問四		28	5	④	
	問五		29	5	①	
	問六		30	6	最初から脳が大きい状態で子どもを産むことはできず、一人前になるまで長い期間を要するようになったから。	50字
第四問	問一		31	2	②	
	問二		32	2	⑤	
	問三	X	33	3	③	
		Y	34	3	②	